

ICT を活用した学習場面

B2 調査活動, C4 学校の壁を越えた学習

総合的な学習の時間	5年1組 佐々木 淑子
単元名 FUZOKU 0501 発 大分魅力発見! ~豊後絞りを広め隊~	
本時のねらい:自分たちの藍建ての今後について, 専門家の話と藍建て日誌の記録を関連付けて考えることを通して, 藍建てがうまくできていない理由(原因)を見出し改善するための情報を収集することができるようにする。	
評価規準:自分たちの藍建ての今後について, 藍建てがうまくできていない理由(原因)を見出し改善するための情報を収集している。【思・判・表 B-②】	

指導の流れ

児童の活動 (ICT 活用の様子)・ICT 活用のねらいや留意点

1. 前時の学習を想起し, 本時のめあてを確認する。
2. 専門家の先生に自分たちの困りを話し, アドバイスをもらう。
 - Web 会議アプリ (Zoom) を用いて, ずっと手本にしてきた「藍染の絵本」の作者である神奈川県川崎市在住で染色家の山崎和樹先生をゲストティーチャーとして招き, 「藍染」の繊細さや難しさについての話を聞く。さらに, 現在の自分たちの藍の状態を実際に見てもらったり自分たちの困りについて質問したりすることで, その場でのやり取りの中でアドバイスをもらうようにする (場面①)。また, 失敗の原因と改善方法について, ロイロノートで共有している藍建て日誌の記録を確認しながら, ゲストティーチャーの話と関連付けて考えることができるようにする。



ICT の活用場面①



ICT の活用場面②

- 日々の藍の様子について, 毎日当番制で, 液温と Ph 濃度を測定する。当番は, 一人一台端末を用いて測定後に結果をロイロノートに記録し担任に送る。担任は送られてきた結果を学級全員に共有し, 各自が毎日確認できるようにする。また, 送られてきた記録については各自の端末で管理できるようにする (場面②)。
3. 集めた情報を整理する。
 - Web 会議の中で分かったことなどは, 各自の端末で観察記録に書き加えたり写真を貼り付けたりしながら整理できるようにする (場面②)。

ICT 活用の効果 (困りが解決されたか)

成果: ICT を活用し, 遠隔地の専門家と直接話をする中で, 自分たちだけでは分からなかった (気付かなかった) ことに対する困りが解決でき, さらに意欲的な学習へとつながった。実際に藍液を「かき混ぜる」「布を浸ける」「すくい上げて液の状態を確かめる」など, 写真やメール, 電話の声だけでは伝わらないことが, Web 会議では動作を伴った話し合いができ効果的であった。また, 観察日誌を共有することで, 休み時間等に個別に確認したり情報を付け加えたりするなど時間的にも有効であった。

課題: Web 会議を行う上での通信上のトラブルが少々生じた。事前の打ち合わせや確認がかなり必要である。情報等が増えてくると, ロイロノートでの各自の情報の整理の仕方に差が生じ, 欲しいときに欲しい情報が出せないということがあるため, 整理の仕方に指導が必要である。